

土地改良区の男女共同参画推進事業について

土地改良区は、農業生産基盤の整備、農業水利施設の保安全管理、災害時の対応、農業・農村が持つ多面的機能の維持など、農業・農村の発展に向けて重要な役割を担う団体であり、その機能と役割を十分発揮することが求められています。

このため、男女を問わず多様な人材がその個性や能力を十分発揮できる組織運営体制の実現に向けて、本会では令和6年度より秋田県の補助を受けて「土地改良区における男女共同参画推進事業」を実施し、土地改良区における男女共同参画の推進を支援します。

○事業の内容

(1) 役職員等の意識向上対策事業

男女共同参画について、役職員等の意識向上を図るため、講習会等の開催、組合員向けのパンフレットの作成等を実施します。



(2) 就業環境整備事業

女性理事登用に向けた定款変更、員外役員の選挙手続き、職場のサービス環境等に関する相談窓口を設置し、必要に応じて関係機関や顧問弁護士等の指導を受けて、男女が共に働きやすい就業環境の整備を支援します。



(3) 女性理事の登用推進事業

女性理事登用の事例の紹介、**女性理事を登用した会員土地改良区に対する支援(※)**、女性役職員のネットワーク化の推進等を実施します。

(※) 女性理事登用助成金の交付

女性理事が所掌する業務等に要する経費を助成し、女性理事登用による効果発揮を促進します。

- ・ 交 付 先：令和5年4月1日以降令和8年3月31日までに女性理事を新たに登用した会員土地改良区。
- ・ 助 成 額：令和5年4月1日～令和8年3月31日に登用した女性理事1名につき1回に限り30万円以内を助成します。
但し、交付対象となる理事は、1土地改良区2名までとします。
- ・ 交 付 時 期：原則、女性理事を登用した年度の翌年度に助成金を交付します。
- ・ 助成金活用経費：女性理事が所掌する業務(地域住民との交流促進、農業関係女性役職員のネットワーク化 等)や男女共同参画に関する講習会等への参加に要する経費。



第24回

「あきたの美しく豊かな農村づくり」 写真コンクール

2月21日(水)と2月22日(木)、第24回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクールの審査会が秋田県社会福祉会館9F特別会議室で行われました。今年度応募いただいた125点のうち、20点の受賞作品が選ばれました。受賞作品については、本会ホームページ「写真コンクール」のサイトでもご紹介しております。

また、右記QRコードからもアクセスできますのでご覧ください。



【審査員】

- 審査員長 中村 章 氏 (全日本写真連盟秋田県本部委員長)
審査員 大久保瑠衣 氏 (秋田魁新報社総合編集本部デジタルセンターデジタル編集部次長)
審査員 藤原 絹子 氏 (秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会事務局長)
審査員 相場 詩織 氏 (フリーアナウンサー)

【講評・感想】

○ 中村 氏

「応募作品の中で色調整をしすぎて派手な写真になっている作品があったので、写真の焼き方を工夫するべきだと思いました。また、選ばれた作品の中でも写る範囲を変えることでもっと良い評価になるものもありました。」

○ 大久保氏

「初めて写真コンクールの審査員を携わらせていただきました。応募されている皆さんは、日頃から日常生活世界を切り取ろうとカメラを向けている方々だと感じました。しかし応募作品の用紙がまちまちで、使われているペーパーが違っていたらもっと良い評価になると感じたものもありましたので、応募規定で写真の材質を統一した方が良いと思いました。」

○ 藤原氏

「写真の審査は初めてで、ご迷惑をおかけしながらも色々と教えていただいて大変勉強になりました。コロナが5類に移行してからは表情が豊かな写真となり、農山村のきれいな風景と人の生き生きとした動きが相まって素晴らしい写真が多く見受けられました。」

○ 相場氏

「写真を見ていて、自分が幼い頃このような風景の中で育ってきたことを思い出し涙がこみ上げてくると同時に、懐かしく幸せな気持ちになりました。写真の技術もそうなのですが、写っている子供たちの表情や美しい農山村の風景をみていると技術を超えて訴えかけてくるものがあると感じました。」





十八森早春賦

田川 和彦 【撮影場所】にかほ市冬師
(撮影コメント)

冬師湿原の十八森ため池の水面が解け出し、鳥海山の水鏡に遅き春を感じた刻。残雪のおかげで行けた場所から運良く撮れた一枚。



縄結の教え。

佐々木 茂 【撮影場所】由利本荘市東由利
(撮影コメント)

3年ぶりに行われた、しめ縄の交換行事。女の子が年配の方に熱心に教えてもらっていた。



癒し郷

佐藤 成公 【撮影場所】羽後町軽井沢
(撮影コメント)

通りがかりの雨上がり、午後の陽をうけた集落と沿道には地域住民により植えられた多くの花々に癒され、このような素敵な活動と山里の景観は後世に伝えていかなければいけないと思ったから。



みーつけた!

@ catmi0621 【撮影場所】横手市十字
(撮影コメント)

大人にとっては大変な収穫作業でも、子供にとってはまるで宝探しのように真剣そのもの。

能登半島災害派遣について

当会管理情報部の柴田副主幹、石川専門員が先陣を切って、その後、鈴木班長、加藤専門員が「令和6年能登半島地震」の災害対応にあたってきました。なお、3月23日より福岡主査、門間専門員が災害対応にあっております。

令和6年1月1日16時10分頃、石川県の能登地方の深さ16kmでマグニチュード(M)7.6の地震が発生した。この地震により石川県羽咋郡(はくいぐん)志賀町(しかまち)で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6弱以上の揺れを観測するなど、被害を伴った。

○被災された場所を目の当たりにしてどのように感じましたか？

地震発生から1ヶ月経ったものの、ライフラインは電気の復旧のみで、上下水道の復旧はしばらく掛かると思われます。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

○現地ではどのような業務(対応)をしましたか？

(1班)柴田、石川 (2班)鈴木、加藤

- (1班)集落排水施設管路の1次調査を実施しました。
業務内容は、マンホールを開け、破損、滞留等の確認、管路の隆起、沈下状況の確認をした上で、2次調査の可否を判定することです。
- (2班)集落排水施設管路の2次調査を実施しました。
業務内容は、1次調査において2次調査が必要と判断された路線の詳細調査として、滞留している汚泥をバキュームで吸引し管口カメラと目視によりマンホール内部と管路の損傷部の確認を行いました。

○現地で苦慮した点はどのようなことでしたか？

集落排水施工後に道路改良が行われたり、除雪により雪に埋まったマンホールの位置を探し当てること、道路下なのでマンホールを開閉するのに苦慮しました。
また、宿泊場所が限定され、調査箇所まで90kmほどあり、復興車のラッシュなどで片道2時間半から3時間ほど掛かりました。

○派遣を終えての率直な気持ちはどうですか？

- (柴田副主幹) 調査や車での移動など大変でしたが、被災を受けられた方々には1日も早く復興され、元気になってもらいたいと思います。
- (石川専門員) 被災地の早期復興を願います。
- (鈴木班長) 普段何気なく利用しているライフラインですが、被災地の状況を目の当たりにして重要性を再認識したので早期の復興を願いたいと思います。
- (加藤専門員) 通水不能区間が複数あるので、今すぐにも仮復旧を行い、生活の安定の確保が必要だと思います。

○今後、災害派遣される方への心得についてご教示願います。

秋田県土地連から石川県金沢市まで片道575km、車で8時間要しました。
さらに、調査の現場も宿舎から片道2時間半以上、また、宿舎へ着いてからは調査書類の整理等があるため、とにかく体調管理に気をつけてください。

○現地の被災状況



(マンホールが隆起?)

道路が下がってマンホールが隆起したように見える。大きい箇所では35cmの段差が見られた。

<能登町 駒奇地区>



(管路沈下確認)

道路舗装下1.2mに埋設されている管路が道路に押し潰され確認出来ない状況である。

<輪島市 美谷地区>



(マンホールのズレ)

マンホールの接続部ズレが確認出来た。大きい箇所では10cm程度のズレが見られた。

<能登町 柳田中央地区>

【柴田副主幹、石川専門員、鈴木班長、加藤専門員お疲れ様でした】

※この度の「令和6年能登半島地震」の募金にあたりまして、皆様方のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。(総額：1,411,768円)